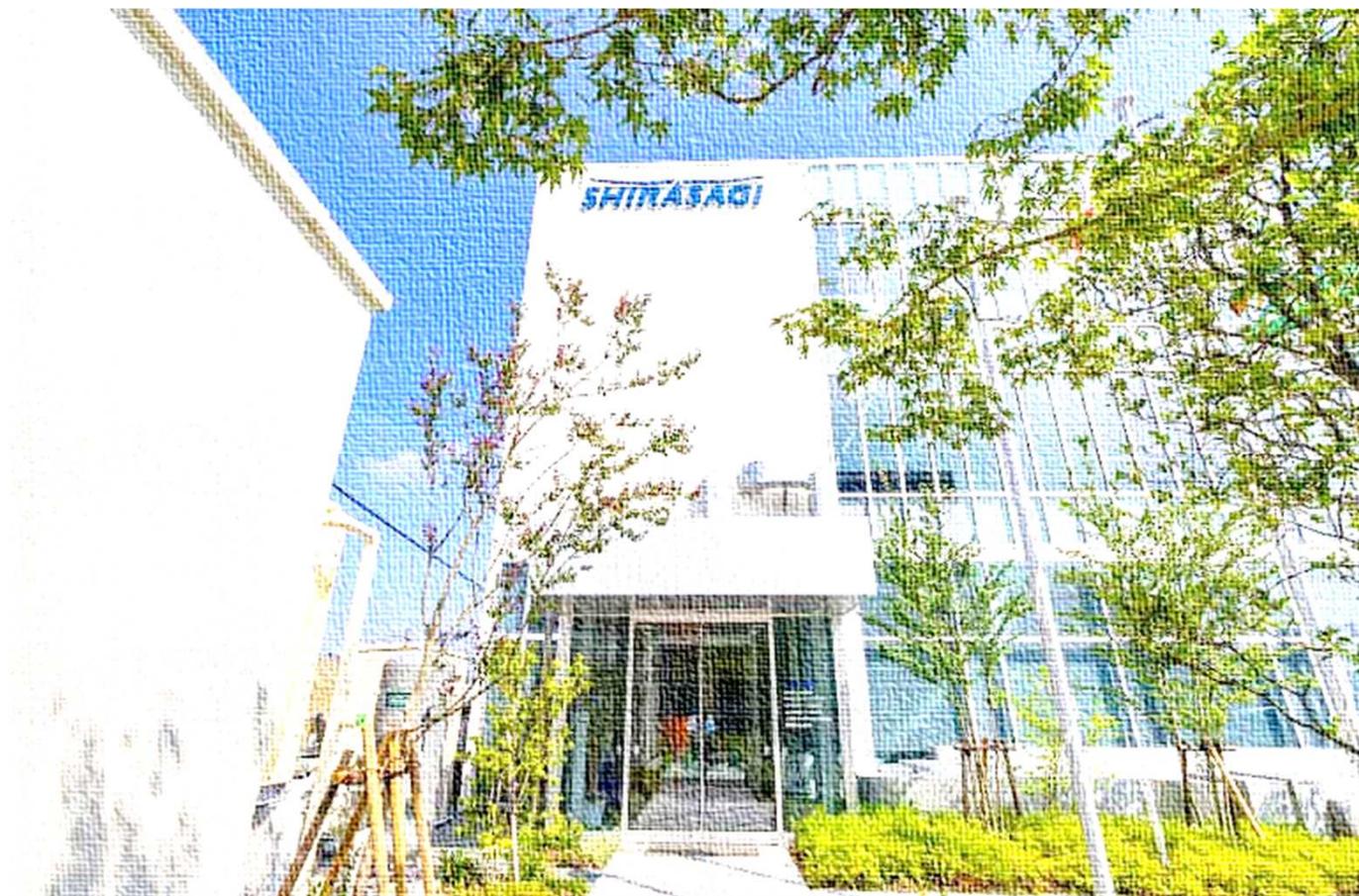


環境経営レポート



The Road to Greening

白鷺電気工業株式会社

発行:2021年10月21日

対象期間:第65期 2020年7月1日~2021年6月30日



Prologue	トップメッセージ・中期経営計画スローガン解説	P2
	企業使命感・存続6ヶ条・環境経営方針	P3
	業務内容・資格取得一覧	P4
	会社概要	P5
Plan	環境経営目標	P7
	環境活動計画	P8
	実施体制(65期 2020年7月～2021年3月)	P9
	実施体制(66期 2021年4月～2022年3月)	P10
Do	各種訓練・教育の推進	P12
	環境コミュニケーションの実施	P13
	認証・表彰 ほか	P14
Check	環境経営計画の実績・取組結果とその評価	P16
	環境目標と取組実績	P17～18
	各部の取組み「本業に繋がるSDGs “環境に優しい工事”」	P19～21
	8つの優先課題 白鷺型『Challenge』	P22～25
	白鷺電気のソリューション	P26
	環境関連法規への確認及び評価、違反・訴訟	P27
Action	代表者による全体の評価と見直し・指示	P29
Epilogue	ライフラインを守る使命のために	P30

トップメッセージ



2020年はコロナ禍の中にあり、様々な場面で対面することが難しく、今までに経験したことがない1年となりました。しかし、業務においては「テレワークやオンライン会議、請求書の電子化」など、変革(トランスフォーメーション)があった1年でした。今後もウィズ・アフターコロナを見据えた取組みを続けていきたいと思えます。

変化に追従して企業変革につなげるため、今年の4月に大規模な組織改編を行いました。ホールディングス経営を強化・効率化して利益率を高めるため、グループ経営戦略部門とグループ内アウトソーシング部門を設立し、グループ全体の業務遂行能力を高めました。今回の組織改編に併せて、両利きの経営『知の深化(深掘りと磨き込み)』と『知の探索(既存を超えて認知を広げる)』を盛り込み、バランスを取って未来を切り拓き、三方よしを実現していきたいと考えております。

熊本に育てられた企業として地域貢献に真摯に向き合い「企業×環境×地域」をはじめとしたSDGs経営を実践しながら、これからも常に「安全を最優先」し、「人を大切に、育てる企業」として社会に信用され続けるしらすぎグループを目指してまいります。

2021.6月



中期経営計画 スローガン 解説

Toward the future 2020

各部より選抜された中堅社員が3カ年の中期経営計画を策定します。会社の成長戦略、課題、地域への貢献、自己研鑽などあらゆる側面から俯瞰的に現状を捉え、私たちはどうあるべきか、どうなっていくべきかを検討し、社員と会社の相互が成長していく未来の設計図を描きます。

2018年から3年間の中期経営計画のスローガンは、「Toward the future2020」
白鷺電気の象徴として本社敷地にそびえ立つ鉄塔のように
業界のてっぺんになることを目標としています。



全社員からその3カ年をテーマとする漢字一文字を募集し、
さまざまな候補の中から躍動の「躍」が選ばれました。

日本中の誰もが知っている会社、100億円企業を目指し、それぞれの
フィールドで躍動する社員の姿をぜひ見ていただければと思います。





くらしと産業の礎をひらく パートナーシステムの 白鷺電気工業

存続6ヶ条

1. 安全 私たちは作業環境の整備を図り、災害ゼロの明るい職場をつくります。
2. 協調 私たちは相互信頼の精神に立ち、常に相手の立場で考え行動します。
3. 技術 私たちはいかなる要望にも即応できる技術としくみを開発します。
4. 啓発 私たちは常に前進を忘れず、昨日よりも今日、今日よりも明日と自分をみがきます。
5. システム 私たちは受注から完成、アフターサービスまでよきチームワークでムダ、ムラ、ムリのない相互協力を行います。
6. 業績 私たちはよい仕事を安く、早く、きれいに仕上げるにより信用・業績を高めます。

環境経営方針

制定 2011年12月1日

改訂 2019年 7月1日

【基本理念】

白鷺電気工業は、「企業使命感」及び「存続6ヶ条」に基づき、国際社会の目標である「持続可能な開発目標(SDGs)」を考慮した事業活動を行い、社会・経済の発展と地球環境保全に貢献していくとともに、地球上の誰一人として取り残さない(Leave no one behind)ことを理念としてSDGs達成に向けた活動に積極的に取り組みます。

【行動方針】

環境に配慮した事業の推進

事業活動における環境への影響を低減させるため、環境への配慮を行うための目標を明らかにするとともに、これに基づく取組をPDCAサイクルの繰り返しにより継続的な改善に取り組みます。

法規等の遵守

事業活動に関係する品質・環境関連法規制、条例、協定及びその他合意した事項を遵守します。

啓発活動の推進

環境教育、環境社会貢献活動などを通して本方針を周知するとともに、社員の環境保全の意識の向上を図り、地域の環境保護活動に積極的に貢献します。

コミュニケーションの推進

社内外のステークホルダーとの積極的な環境コミュニケーションを進め、相互協力に努めます。

SDGs(Sustainable Development Goals)への取組み

「知る」から「行動する」、そして「貢献する」へとSDGsに対する取組みに注力します。

白鷺電気工業株式会社
代表取締役社長 沼田幸広



でんきで広がる楽しい地球。



SEESが地域のインフラを支えます

総合技術商品である「しらさぎ 電気エネルギー総合システム (SEES)」は、今まで培ってきた発電、送電工事の技術を基盤に、電気設備の新設・補修工事や太陽光・風力発電等の新電気エネルギー導入のご提案、経済環境には不可欠な省エネルギー・省コストの実現、さらに快適なオール電化のご提案、ビルや事業所の保守・メンテナンスを行い、皆さまの暮らしと産業をサポートする体制を構築しています。

電力プラント事業

- ・九州電力ほかの発電所新設、修繕工事
- ・九州電力ほかの送電設備新設、修繕工事及び調査測量
- ・電灯・動力設備工事

情報通信設備サービス事業

- ・情報通信網（光ケーブル）新設、補修工事
- ・WAN、LAN工事
- ・信号機工事
- ・BBIQ回線提供工事

快適電化サポート事業

- ・太陽光発電
- ・電気温水器
- ・エコキュート
- ・IHクッキングヒーター

省エネ・省コストサポート事業

- ・電力環境改善サポート
- ・UPS（無停電電源装置）
- ・空調設備
- ・照明器具
- ・ピーク負荷抑制装置
- ・自家発電機設置工事

新電気エネルギー事業

- ・太陽光発電システム
- ・小型風力発電システム
- ・小型水力発電システム
- ・環境保全型施設的设计・施工

でんでんメンテサービス事業

- ・事業所用高圧受変電設備保守・点検業務
- ・オール電化商品保守・点検業務
- ・守衛等警備業務
- ・建築設備の総合管理

資格取得一覧（6月末時点：全76種が「資格手当支給対象」となり努力が実る制度が作られています）



第1種電気主任技術者	第3種電気主任技術者	電気通信主任技術者(伝送交換)	陸上無線技術士第1級
技術士一次試験合格	監理技術者(電気、土木、通信)	1級電気工事施工管理技士	2級電気工事施工管理技士
1級土木施工管理技士	2級土木施工管理技士	2級管工事施工管理技士	第1種電気工事士
第2種電気工事士	1級電気通信工事施工管理技士	機械保全技能検定1級	発電電制御・保護装置(A,B,C)
消防設備士甲類	消防設備士乙類	危険物取扱者乙4類	測量士補
陸上特殊無線技士1級	陸上特殊無線技士2級	工事担当者1種(アナログ・デジタル)	工事担当者2・3種(アナログ・デジタル)
工事担当者2・3種(AI・DD)	工事担当者総合種(AI・DD)	第一種衛生管理者	ITパスポート
環境社会検定(eco検定)	ビジネスコンプライアンス検定初級	日商簿記2級	日商簿記3級
建設業経理士2級	建設業事務士3級	秘書検定準1級	秘書検定2級
品質管理検定2級	品質管理検定3級	CSR検定3級	防災士

(主要資格一覧) ※対象資格が64期より34種増加

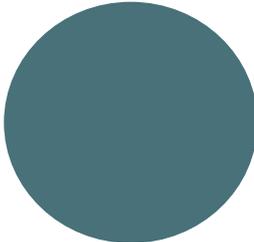
会社概要



事業者名 白鷺電気工業株式会社 代表名 代表取締役社長 沼田 幸広

事業所	従業員数(135名)	所在地
熊本本社	80名	熊本市東区御領8丁目3番38号
八代支社	50名	八代市宮地町1680
福岡支社	社員兼務	福岡市博多区博多駅中央街8-1 JRJP博多ビル3階
京都支社	4名	京都市右京区梅津南広町6-1 エスパシオ梅津4-A号
人吉営業所	1名	人吉市願成寺町1343-1
鹿児島営業所	社員兼務	鹿児島市西千石町11-21 鹿児島MSビル6階
水俣営業所(2021.3 廃止)	-	水俣市浜町1丁目2-22
しらすぎエナジー株式会社	社員兼務	上益城郡益城町小谷2224-8
資本金	1億円	設立年月 1947年2月
事業内容	電気工事業、土木工事業、とび・土工工事業、鋼構造物工事業、塗装工事業、水道施設工事業 管工事業、電気通信工事業、消防施設工事業、機械器具設置工事業	
環境管理責任者	西 薫	担当者 松嶋まゆみ
連絡先	本社 電話:096-380-7171 FAX:096-380-7140	https://www.shirasagidenki.co.jp
認証・登録範囲	本社・八代支社・福岡支社・京都支社・人吉営業所・鹿児島営業所・しらすぎエナジー株式会社	
対象期間	第65期 2020年7月1日~2021年6月30日	発行日 2021年10月21日





Plan

環境経営目標 (運用期間：2020年7月～2021年6月)



区分	項目	基準年	3年間の目標		
		2018年実績	2019年目標	2020年目標	2021年目標
二酸化炭素排出量の削減		346,793 kg-CO ₂	基準年度比▲1%	基準年度比▲2%	基準年度比▲3%
			343,325kg-CO ₂	339,857kg-CO ₂	336,389kg-CO ₂
	電力の削減	147,393kWh	基準年度比▲1%	基準年度比▲2%	基準年度比▲3%
			145,919kWh	144,445kWh	142,971kWh
	ガソリンの削減	86,768ℓ	基準年度比▲1%	基準年度比▲2%	基準年度比▲3%
			85,900ℓ	85,033ℓ	84,165ℓ
	軽油の削減	35,092ℓ	基準年度比▲1%	基準年度比▲2%	基準年度比▲3%
			34,741ℓ	34,390ℓ	34,039ℓ
	灯油の削減	1,530ℓ	基準年度比▲1%	基準年度比▲2%	基準年度比▲3%
			1,515ℓ	1,499ℓ	1,484ℓ
一般廃棄物排出量	一般廃棄物削減 (リサイクル率向上)	5,444kg	基準年度比▲1%	基準年度比▲2%	基準年度比▲3%
			5,390kg	5,335kg	5,281kg
産業廃棄物排出量	産業廃棄物削減 (リサイクル率向上)	13,095kg	基準年度比▲1%	基準年度比▲2%	基準年度比▲3%
			12,964kg	12,833kg	12,702kg
水使用量	水使用量の削減	631m ³	基準年度比▲1%	基準年度比▲2%	基準年度比▲3%
			625m ³	618m ³	612m ³
グリーン購入	グリーン購入の推進	4件	基準年の1種類増加	基準年の2種類増加	基準年の3種類増加
			5件	6件	7件
環境に配慮した事業活動	社会への啓発活動の推進	イベント参加 (1人当り) 4件/年	イベント参加 (1人当り) 4件/年	イベント参加 (1人当り) 4件/年	イベント参加 (1人当り) 4件/年
			管理状況の確認	管理状況の確認	管理状況の確認
化学物質の管理	化学物質の適切な管理	管理状況の確認	管理状況の確認	管理状況の確認	管理状況の確認
		1回/四半期	1回/四半期	1回/四半期	1回/四半期

- (注記) 1. 電気の二酸化炭素排出係数は2018年度九州電力の実排出係数0.347を使用する。
 2. 化学物質の管理においては、塗料・シンナー・高圧絶縁油などにおいて内容・性質などの把握及びSDSに沿った適切な取扱いと管理の実施を行う。

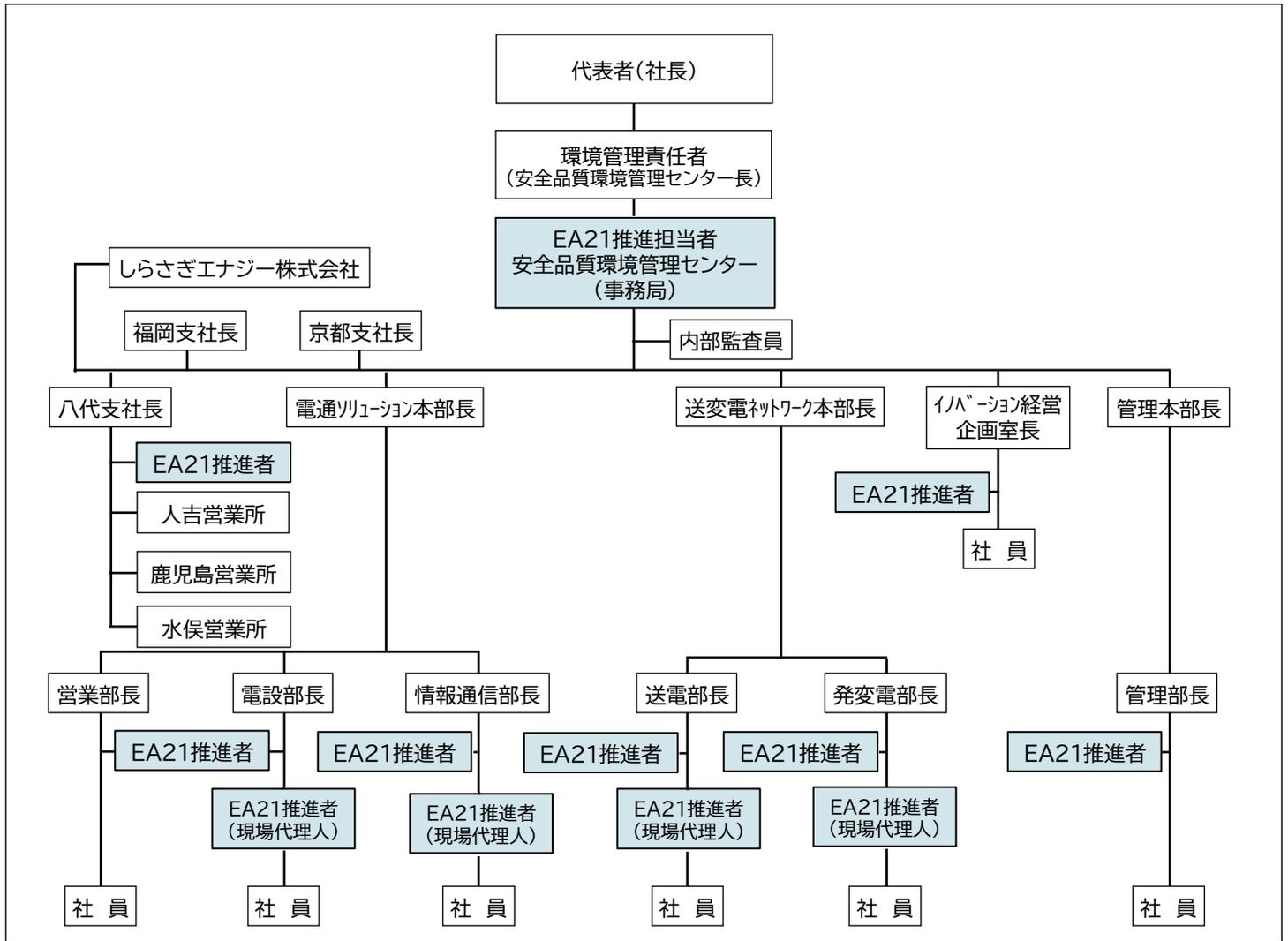
(目標の設定)

2018年2月に本社が移転したことによって延床面積が大きく変わりました。そのため旧社屋で適用した基準のままでは電気使用量の目標達成率が57.8%となり、また本社ではストーブを使用しなくなり灯油の使用量が減少した等の理由から、基準を(新本社に移転後の2年目)2018年実績とし3年間(2019年～2021年)の中期計画を立てました。
 2015年10月から使用を開始したガソリンカードでの給油分を2019年度分まで加算していない不備がありました。データを遡って修正したため、ガソリンと軽油の2018年実績と3年間の目標を見直しました。
 今後も設定した目標に対して状況変化等が生じた場合は、必要に応じて見直しを実施したいと思います。

(グリーン購入について)

グリーン購入の調達判断としては「エコマークとグリーン購入法特定調達品目パンフレット」及び「公益財団法人 日本環境協会 エコマーク事務局」のホームページにて「グリーン購入法品目」の検索機能を用いています。

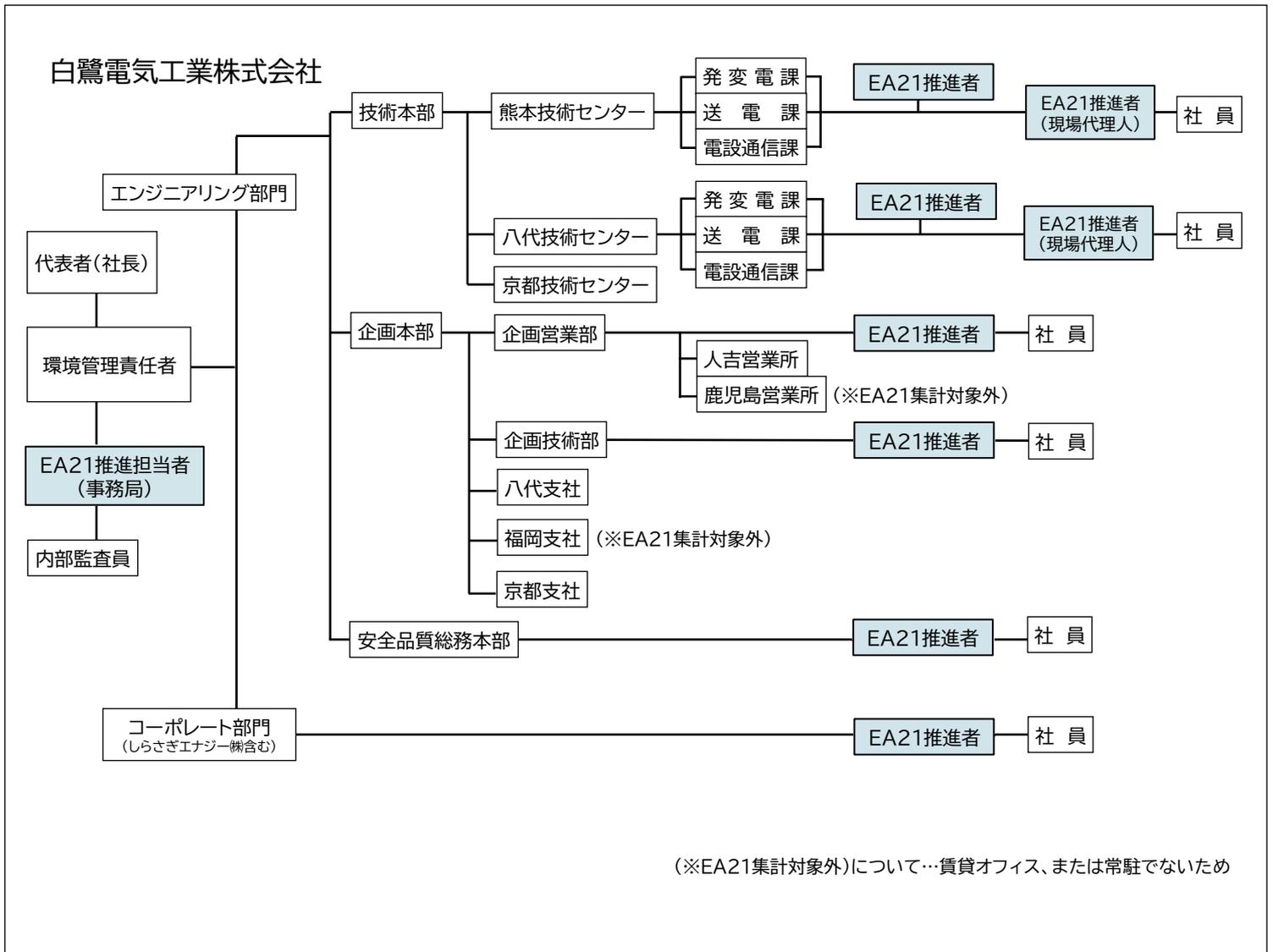
環境経営方針		取組み事項	実施内容	SDGsの取組み
1 環境に配慮した事業の推進	地球環境問題への取組み	ガソリン・軽油等燃料使用状況の精度向上	・車両管理表の記入徹底による燃費管理 ・ドライブレコーダー全車両取付による運転特性の把握	
		省エネ省コスト製品の提案・導入	・(COOL CHOICE)エコカーの導入、新車への買い替え検討 ・省エネ関連製品の提案・導入促進(EVバス等)	
		地域環境活動NPOボランティア	・熊本城と八代城跡の清掃活動、森林水源涵養のための里山保全、植林地下草刈り	
		電気・水使用の管理	・使用量の把握と節水活動の推進 ・照明の人感センサー・スケジュール機能の見直し	
		クリーンエネルギーの活用	・太陽光発電所発電事業 ・本社ビルの地中熱利用換気システム、太陽光発電、太陽光利用給湯、蓄電池の利用	
	循環型社会形成への取組み	廃棄物排出量の把握	・マニフェストの管理と分別収集の徹底 ・廃棄物排出量の削減 ・リサイクルの推進	
		ペーパーレス化の推進	・プリンターのID管理による無駄な印刷の抑制 ・オンライン会議での資料画面共有による会議資料の印刷削減 ・スマホでも閲覧可能のように添付資料のPDF統一化 ・プリンターの印刷色 デフォルトを白黒にするルール化 ・印刷紙の裏面活用 ・各種申請、日報、給与明細のシステム化(スマホ or PC閲覧) ・全社員への業務用スマホ、ノートPCの貸与	
		グリーン調達	・事務用品、工事資材等の積極的なグリーン商品購入	
		ICTを用いた先進的な取組み	・テレワークやオンライン会議を多用し、移動による労働時間とCO ₂ 排出やエネルギーの削減 ・E-ラーニングによる社員のSDGs教育 ・本社「Nearly ZEB」認定、ZEBリーディング・オーナー登録 ・体表温検知システム導入、販売 ・電気通信工事事業者広域連携基本協定締結 ・スマート農業技術の開発	
	2 法規等の遵守	環境管理の推進	化学物質等の適切な管理・処理及び代替化の取組み	・SDS制度に基づいた化学物質使用量の確実な把握 ・化学物質使用量の削減 ・資材倉庫・油倉庫の整理・整頓
環境法規制の遵守			・環境法規性の遵守を行い、景観・騒音・振動・悪臭・緑化に配慮する	
ハザードマップ作成			・工事現場周辺の過去の災害、地形や環境を調べて作成、現場事務所内に掲示	
生物多様性に配慮した工法			・工事現場地域の生物多様性に配慮した行動、工法を検討実施する	
災害時の備え BCP対策			・非常用電源の設置、災害対策本部の見直し、連絡体制が機能するかの模擬訓練 ・長距離無線LANや安否コール等連絡手段の確保 ・食料備蓄品、段ボールベッド、簡易型炊き出しセットなどの管理	
3 啓発活動の推進	環境活動の推進	環境マネジメントシステムの自立運用	・EA21推進委員会(月1回/年12回) ・クロスパトロール実施(3カ月に1回/年4回) ・内部監査の実施 ・防災訓練・環境教育の実施	
		各事業所単位の環境活動支援	・地域ボランティアによる環境貢献活動	
		職場環境の向上	・働き方改革の推進 ・ワークライフバランスの推進 ・ジェンダーダイバーシティマネジメントの推進 ・外国人の雇用 ・全フロアWi-Fi化による座席の自由度と効率化 ・ムダムラを無くす文房具の共有化 ・社員旅行、花見などの社員間コミュニケーション行事の実施 ・治療と仕事の両立支援、キャリア育成の行動計画策定	
4 コミュニケーションの推進	社会との協調	環境コミュニケーションの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の機会に「3010運動」の実施 ・インターンシップや会社見学の受け入れ ・会社見学者の即時受付のための体制 ・環境経営レポートの配布(会社見学・採用活動・営業活動時) ・各種環境等コンクールへの応募 ・ホームページにてレポートの公開 ・SNSを用いた会社情報や環境活動の発信 ・各種寄付活動 	



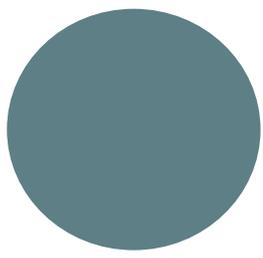
順位	主な責任と権限
代表者(社長)	環境経営方針の制定と、EA21環境マネジメントシステムの統括 環境管理責任者の任命 取組状況を評価し全般的な見直しの実施及び指示 環境活動への取組を適切に実行するための資源(人・物・金)の準備
環境管理責任者	代表者より委任を受け環境経営システム全体的な構築、運用、維持に関する責任と権限 環境経営計画の策定及び進捗管理を代表者へ報告 環境関連法規のとりまとめと評価及び環境経営レポートの確認と公表
EA21推進担当者 (事務局)	環境経営における事務局としての環境管理責任者の補佐 環境活動における決定事項を社員全般への伝達及び環境活動記録の取りまとめ 環境上の外部コミュニケーション窓口 環境関連法規の取りまとめ及び環境経営レポートの作成、環境管理責任者への報告
EA21推進者	環境経営の事務所における記録と事務局への報告 事務所内におけるエコ活動の推進 一般廃棄物、産業廃棄物の管理と事務局への報告
EA21現場推進者 (現場代理人)	環境経営の現場における記録と事務局への報告 現場内における緊急事態への対応訓練実施と記録及び事務局への報告 一般廃棄物、産業廃棄物の管理と事務局への報告
社員	環境経営方針、環境目標に沿った環境活動の展開 環境活動における改善点の提言

2021年4月1日付で会計年度の期首を7月⇒4月へ変更し、組織の改編を行いました。
それに伴い、下記の通り認証対象が縮小となりました。

・対象範囲の縮小：水俣営業所(2021.3 廃止)



出来高は2020.7～2021.3までの9ヶ月間のご報告となりますが、エネルギー負荷及び活動のご報告期間は2020.7～2021.6までの1年間としています。



Do

● 2020.7.3 災害訓練

全国安全週間「災害訓練の日」に合わせて、訓練を行いました。各部で事故発生から緊急連絡体制や負傷者の搬送方法など実際の事故を想定し、関係各所との具体的な連携を確かめました。



本部で連絡を受ける様子

● 2020.11.5 「熊本シェイクアウト」訓練

その場でできる防災訓練として毎年実施しています。多くの社員が熊本地震で被災した経験から、必要な訓練との認識で取り組みます。



● 2020.11.21 消防訓練

火災受信機の発報後、火元発生場所を知らせる館内一斉放送があり、誘導員による的確な誘導で全員素早く避難することが出来ました。避難の後は消火器の取り扱いについて説明を受け、実際に火災に見立てた目標物に向かって消火の実践練習を行いました。



● 2020.8.28 第32回 安全総点検

安全教育研修会も兼ね、しらすぎグループと協力会社23社をお招きし、総勢235名での研修会です。

NHKテレビ・ラジオ体操指導者 岡本美佳先生による「ラジオ体操及び講話」、SQE管理センターによる「ペットボトルで心肺蘇生訓練 CPRトレーニング」など、安全と健康について考える一日となりました。

(当日の感染予防対策)

- 〈入 場〉・会場に入る際の人数をコントロール
- 〈入 口〉・ポスターや立ち位置シールの設置
 - ・入場の際、タブレット型の温度検知システムによる来場者全員の検温
 - ・感染予防資材(マスクやアルコール消毒液など)の準備
- 〈受 付〉・受付スタッフと来場者の間を遮断するためにパーテーションの設置
- 〈会場内〉・来場者が座るイスはあらかじめアルコールで消毒
 - ・イスとイスの間を2mの距離を空けて設置
 - ・登壇者は来場者との距離を2m以上確保し、フェイスガードの装着
 - ・会場全体の空気の入れ替えのため、ドアの解放
 - ・トイレの場所を複数箇所案内し、人の動きを分散
- 〈退 場〉・会場を出る際の人数をコントロール



ラジオ体操

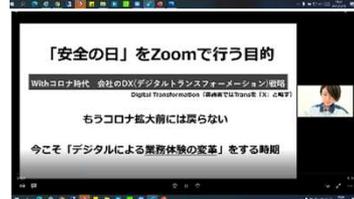


心肺蘇生訓練

● 2021.3.6 安全の日

当日はZoomを使い、熊本本社、八代支社、福岡支社、京都支社、現場事務所、テレワーク社員を結び、社員それぞれの場所で140名が参加しました。

「平成17年墜落災害と風化防止の取組み」、スリーエムジャパンインベーション株式会社片岡克己様による「安全継承 安全を自分事に」労働災害から大規模自然災害まで、心肺蘇生法とAEDの使用法(動画視聴)、その後ブレイクアウトセッションで、各グループに分かれ、安全について振り返りを行いました。



● 2021.4~6 新入社員研修

今年はコロナの影響で社外の研修が受講できなかったため、社内研修の更なる充実が図られました。



ドローン研修

2020.9.26 南阿蘇下草刈りボランティア



9月とはいえまだまだ暑さが厳しいこの時期に南阿蘇下草刈りボランティアを行いました。EVバスで移動した後、まだまだ青々としている下草を刈りました。以前植樹をした栗の木に栗が実っており、みんなで喜びを感じる場面もありました。続けていくことの大切さを実感するボランティアとなりました。



2020.10.31 八代城跡清掃ボランティア



今年で20回目となった八代城跡清掃ボランティアは、例年とは違いコロナ禍での開催となりました。感染対策を徹底し、普段の参加人数の半分程度の総勢58名で実施いたしました。少ない人数でしたが、清掃作業に慣れている社員は、テキパキと作業をこなし、綺麗な八代城跡がよみがえりました。



コロナによる影響

これまでNPOしらさぎの活動は、初夏に熊本城石垣清掃ボランティアと春秋に南阿蘇下草刈りボランティアを実施しておりましたが、新型コロナウイルスによる全国的な緊急事態宣言を受け、今年度は実施の見送りとなりました。これからのボランティア活動は、withコロナを考えながら、できる限りの感染対策を実施し、参加者が安心できる活動を実施してまいります。



NPO法人しらさぎ歴史年表～地域と共に歩んだ歴史～

1998. 7月 特別養護老人ホームやすらぎ荘清掃奉仕活動からスタート

1999. 8月 八代城跡の清掃奉仕活動をスタート

2004. 7月 熊本城の清掃奉仕活動をスタート

2008. 4月 第1回阿蘇西原村植林活動をスタート

2009. 8月 八代城清掃に景勝地「水島」を加え実施

2010.12月 阿蘇西原村下草刈りスタート

2012.10月 第21回くまもと環境賞「奨励賞」を受賞

2013. 4月 山都町菅棚田地区にて米作り実施

2014. 6月 第23回くまもと環境賞「くまもとストップ温暖化賞」を受賞

2015. 1月 第110回くまもと環境賞「熊日緑のリボン賞」を受賞

2015. 6月 平成27年度 環境大臣表彰「地域環境美化功績者」

2015.10月 「肥後の水とみどりの愛護賞」を受賞

2016. 7月 熊本市江津湖で清掃奉仕活動実施

2018. 8月 八代城跡・松井神社での清掃奉仕活動を実施



実施回数：のべ66回
参加人数：のべ7,435人



2020.10.6 全国育樹活動コンクール

NPO法人しらすぎが「全国育樹活動コンクール 国土緑化推進機構理事長賞」を受賞しました。地域の育樹活動の普及、向上に著しい実績をあげた団体として評価されました。



2021.3.4 「健康経営優良法人2021」に認定

経済産業省と日本健康会議から、「健康経営優良法人2021」に認定されました。特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を日本健康会議が認定する制度です。



2020.10.19 熊本県森林吸収量認証書交付

熊本県庁で熊本県森林吸収量認証書交付式が開催され、令和元年度分の森林整備活動によって吸収された二酸化炭素量の認証書、「熊本県森林吸収量認証書」が交付されました。



2021.3.22 「環境 人づくり企業大賞2020」

環境省と環境人材育成コンソーシアム(EcoLeaD)が主催する「環境 人づくり企業大賞2020」において、環境大臣賞(最優秀賞)を受賞しました。弊社の受賞は初めてです。



2021.2.17 第24回「環境コミュニケーション大賞」表彰式

表彰式がオンライン(Zoom)にて開催され、第24回環境コミュニケーション大賞 環境経営レポート部門 優秀賞(地球・人間環境フォーラム理事長賞)が、授与されました。



2021.5.31 「BCAOアワード2020」

特定非営利活動法人 事業継続推進機構(以下BCAO)が主催する「BCAOアワード2020」において、事業継続部門「優秀実践賞」を受賞しました。弊社の受賞は今回が初めてです。

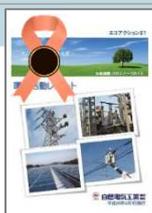


2012年初刊～2021年までの軌跡

認証・登録番号 0008443 認証登録日 2012年6月26日



第56期 2012.7 初刊



第57期 2014.4 発行
第7回「環境活動レポート大賞・九州」
エネルギー部門賞 受賞



第58期 2015.3 発行



第59期 2015.12 発行
第9回「環境活動レポート大賞・九州」
九州地方環境事務所長特別賞 受賞
第20回「環境コミュニケーション大賞」
優良賞 受賞



第60期 2017.5 発行
第10回「環境活動レポート大賞・九州」
大賞 受賞



第61期 2017.12 発行
第11回「環境活動レポート大賞・九州」
選考委員会特別賞 受賞
第22回「環境コミュニケーション大賞」
優良賞 受賞



第62期 2018.12 発行
第12回「環境活動レポート大賞・九州」
九州地方環境事務所長特別賞 受賞
第23回「環境コミュニケーション大賞」
優良賞 受賞



第63期 2019.11 発行
第24回「環境コミュニケーション大賞」
優秀賞 受賞



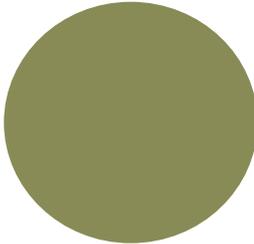
第64期 2020.11 発行



第65期 2021.10 発行



長年の活動が表彰されました



P.15

Check

環境経営計画の実績・取組結果とその評価

環境経営方針		取組み事項	実施内容 (実施:○ 検討要:△ 未実施:×)	評価	SDGs の取組み
1 環境に配慮した事業の推進	地球環境問題への取組み	ガソリン・軽油等燃料使用状況の精度向上	・車両管理表の記入に抜けがあり徹底が出来ていなかった ・ドライブレコーダー全車両取付による運転特性の把握	△	
		省エネ省コスト製品の提案・導入	・(COOL CHOICE)エコカーの導入、新車への買い替え検討 ・省エネ関連製品の提案・導入促進(EVバス等) ・執務室内にハイブリッドファンの導入	○	
		地域環境活動NPOボランティア	・熊本城と八代城跡の清掃活動、森林水源涵養のための里山保全、植林地除草刈り	○	
		電気・水使用の管理	・使用量の把握と節水活動の推進 ・空調のスケジュール機能をEA21推進委員会で見直し、適正な運用を実施	○	
		クリーンエネルギーの活用	・太陽光発電所発電事業 ・本社ビルの地中熱利用換気システム、太陽光発電、太陽光利用給湯、蓄電池の利用	○	
	循環型社会形成への取組み	廃棄物排出量の把握	・廃棄物の全量把握が一部出来ていなかった ・廃棄物排出量の削減 ・リサイクルの推進	△	
		ペーパーレス化の推進	・プリンターのID管理による無駄な印刷の抑制 ・オンライン会議での資料画面共有による会議資料の印刷削減 ・スマホでも閲覧可能なように添付資料のPDF統一化 ・プリンターの印刷色 デフォルトを白黒にするルール化 ・印刷紙の裏面活用 ・各種申請、日報、給与明細のシステム化(スマホ or PC閲覧) ・全社員への業務用スマホ、ノートPCの貸与	○	
		グリーン調達への推進	・事務用品、衛生用品、工事資材等の積極的なグリーン商品購入	○	
		ICTを用いた先進的な取組み	・テレワークやオンライン会議を多用し、移動による労働時間とCO ₂ 排出やエネルギーの削減 ・Eラーニングによる社員のSDGs教育 ・本社「Nearly ZEB」認定、ZEBリーディング・オーナー登録 ・体温検知システム導入、販売 ・スマート農業技術の開発 ・CO ₂ 濃度測定器(hazaview)の導入	○	
		ICTを用いた先進的な取組み	・テレワークやオンライン会議を多用し、移動による労働時間とCO ₂ 排出やエネルギーの削減 ・Eラーニングによる社員のSDGs教育 ・本社「Nearly ZEB」認定、ZEBリーディング・オーナー登録 ・体温検知システム導入、販売 ・スマート農業技術の開発 ・CO ₂ 濃度測定器(hazaview)の導入	○	
2 法規等の遵守	環境管理の推進	化学物質等の適切な管理・処理及び代替化の取組み	・SDS制度に基づいた化学物質使用量の確実な把握 ・化学物質使用量の削減 ・資材倉庫・油倉庫の整理・整頓	○	
		環境法規制の遵守	・環境法規制への違反なし、関係当局よりの違反等の指摘なし	○	
		ハザードマップ作成	・工事現場周辺の過去の災害、地形や環境を調べて作成、現場事務所内に掲示し、災害発生時の危険防止のため周知する	○	
		生物多様性に配慮した工法	・ケーブル延線時の樹木保護用足場設置など	○	
		災害時の備え BCP対策	・非常用電源の設置、非常災害対策本部の適正な見直し、連絡体制の確立 ・長距離無線LANや安否コール等連絡手段の確保 ・食料備蓄品、段ボールベッド、簡易型炊き出しセットなどの保管、管理	○	
3 啓発活動の推進	環境活動の推進	環境マネジメントシステムの自立運用	・EA21推進委員会(月1回/年12回) ・クロスパトロール実施(3カ月に1回/年4回) ・内部監査の実施 ・防災訓練、環境教育(SDGs)の実施	○	
		各事業所単位の環境活動支援	・各事業所、現場事務所周辺清掃などの環境貢献活動	○	
		熊本県SDGs登録制度	・熊本県SDGs登録に申請し、第1回登録者として認定	○	
		職場環境の向上	・働き方改革の推進(指定休の設定による確実な休日の取得) ・本社の全フロアWi-Fi化による座席の自由度と効率化 ・ムダムラを無くす文房具の共有化 ・治療と仕事の両立支援、キャリア育成の行動計画策定 ・新型コロナウイルス感染症対策本部の設置と対策方針の発出	○	
4 コミュニケーションの推進	社会との協調	環境コミュニケーションの推進	・雇用を創出し就労支援福祉施設へ業務の委託 ・インターンシップや会社見学でSDGs、NPO、ZEBなど説明 ・会社見学者の即時受付のための体制強化 ・環境経営レポートの配布(会社見学・採用活動・営業活動時) ・各種環境等コンクールへの応募 ・ホームページにてレポートの公開 ・SNSを用いた会社情報や環境活動の発信 ・寄付(マッチングギフト、スポンサーなど)、古切手、プルトップ回収活動などの社会福祉貢献	○	

環境目標と取組実績

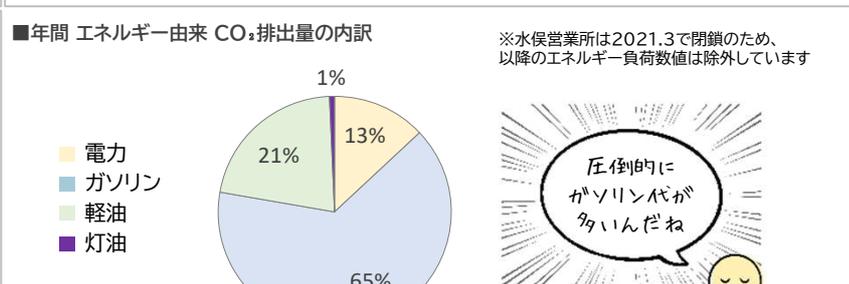
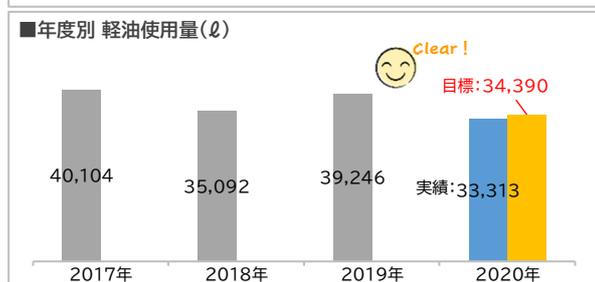
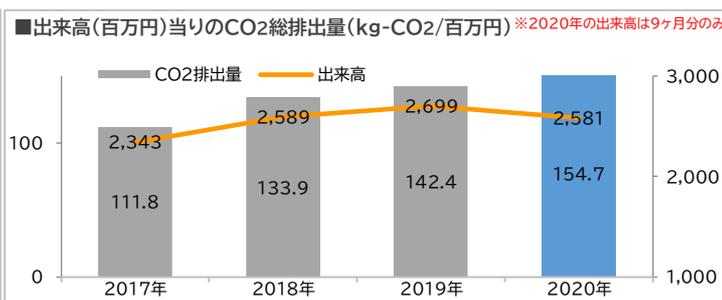
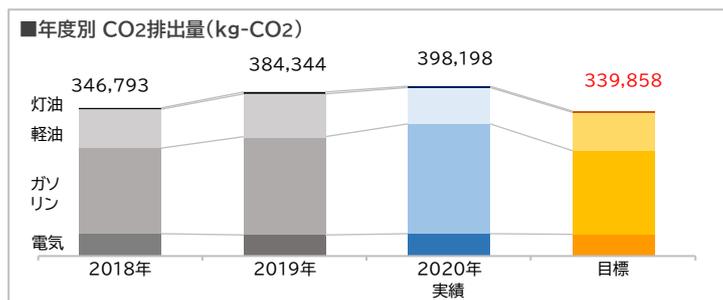
期間:2020.7~2021.6

Check

項目	基準年 2018年 実績値	2020年 対象期間 (↑ 100%以上 → 60%以上 ↓ 60%未満)		
		目標値	実績	達成度
CO ₂ 総排出量	346,793kg-CO ₂	339,858kg-CO ₂	398,198kg-CO ₂	85% →
電気使用量	147,393kWh	144,445kWh	148,862kWh	97% →
ガソリン使用量	86,768ℓ	85,033ℓ	111,061ℓ	77% →
軽油使用量	35,092ℓ	34,390ℓ	33,313ℓ	103% ↑
灯油使用量	1,530ℓ	1,499ℓ	1,178ℓ	127% ↑

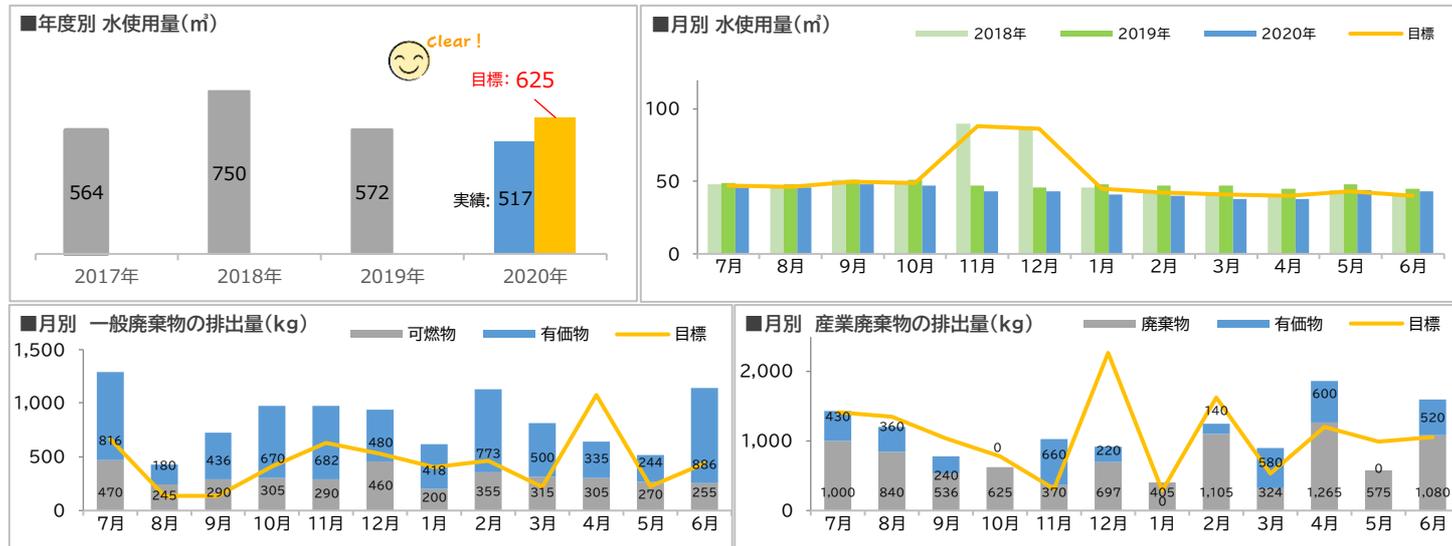
*数値目標は2018年実績を基準とし、2%削減を環境目標とした

*福岡・鹿児島支社は賃貸オフィス及び常駐でないため集計対象外とした



項目	基準年 2018年 実績値	2020年 対象期間 (↑ 100%以上 → 60%以上 ↓ 60%未満)			
		目標値	実績	達成度	
水使用量	631m ³	618m ³	517m ³	120%	↑
一般廃棄物の排出量	5,444kg	5,335g	10,178kg	52%	↓
産業廃棄物の排出量	13,095kg	12,833kg	12,571kg	102%	↑
グリーン購入	4件	6件	7件	117%	↑
環境活動に配慮した事業活動	参加:4件/年	参加:4件/年	参加:2件/年(※)	50%	↓
化学物質購入実績	455ℓ	適切な管理	234ℓ	○	○

※環境活動に配慮した事業活動・・・コロナ禍のため全社的な実績は年2件ですが、部署単位では目標を達成しています

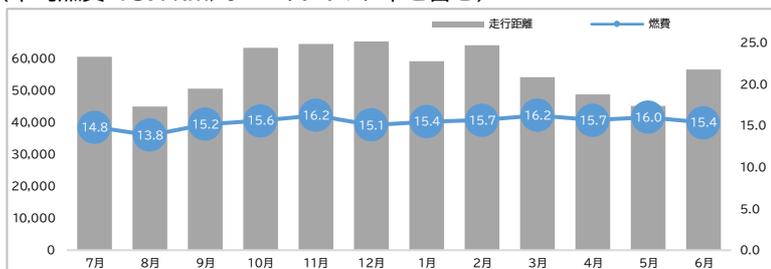


取組結果とその評価

- 電気 12月から前年同月を上回る電気使用量となりました。コロナウイルス感染症対策で執務室内を強制換気し、ドアの開放を行っていった影響が出たものと思われます。ハイブリッドファンによる空気循環の効果をhazaviewで検証し、節電を検討します。
- ガソリン これまで加算していなかったガソリン給油カードが発見され、是正を行いました。年々このガソリン給油カードでの使用分が増えており、合算の前後を比較すると3倍近く誤差が出たため、2015年のデータから修正を行いました。2020年は7月から豪雨災害の復旧作業の影響が長く続いた部署や、長距離移動が増えたことで、年間を通して使用が増える結果となりました。
- 軽油 工用重機等は最新の燃費改善型のリースや、現場でのアイドリングストップなどに配慮した結果、ほとんどの月で前年同月を下回る数値となりました。充電式の最新機械へ買い替えを行うなど、現場と協議を重ね、対策を検討します。
- 灯油 灯油の使用は支社のみですが、達成率は127%でした。前年の89%より大きく節約効果が出ており、使用者の意識向上が伺える結果となりました。引き続き、節約を意識しながら無駄な使用を抑えていきます。
- 水 水の使用量については達成率120%と大幅な削減が出来ました。感染症対策としての手洗いうがいはきちんと行いながら、引き続き節水を励行していきます。
- 廃棄物 昨年は支社担当者の退職による後任の不在で適正な数値が取れませんでした。今期では細かく記録されたことと、一部処理場への持ち込みから回収へと回収方法の変更したことで、これまで表面化していなかった数値が出てきた結果となりました。引き続き、全量把握と適切な処理が行えるよう体制を整えていきます。

燃費向上への取組み

(平均燃費 15.7km/ℓ ハイブリッド車を含む)



白鷺燃費 No.1グランプリ

普通ハコバン部門			軽ワゴン部門			
部門	号車	燃費	部門	号車	燃費	
1	発電	H033	19.5	電設	H005	19.2
2	送電	34	17.3	情通	H008	17.1
3	発電	27	16.2	送電	H004	16.2



●スマートコネク ト ランキングレポート活用

すべての車両にドライブレコーダーを設置し、ドライバーの運転行動を記録。部署ごとのランキングレポートにてドライバーの特性を「見える化」し、安全運転とエコ運転の教育に活用しています。

長崎県アライド/長崎県庁 車検センター

SMAS-Smart Connect

RANKING REPORT

2023年05月分 ランキングレポート

株式会社エヌエス

各部の取組み「本業に繋がるSDGs “環境に優しい工事”」

弊社では2027年に迎える80周年を目指し、『白鷺電気工業 Vision80』という行動指針に沿って、中期経営計画で3カ年の目標を定めています。

2018年からの3カ年は「① 本業を深め、広げる」「② 社内起業を促進する」「③ 働き方改革を実現する」「④ さらに地域と共に歩む」が基本の骨格となります。

エコアクション21推進委員会では、これらの骨格をもとに「本業に繋がるSDGs “環境に優しい工事”」について各部の取組み計画を立てました。毎月開催する推進委員会で進捗の発表をするなどし、他部署の取組みを共有しています。

01. 発電部



【取組み①】採油を行う際の配慮

PCB含有絶縁油の採油時は、保護具(保護メガネ、マスク、手袋)を使用し身体に油が触れないように作業を行っています。又、漏油しないようにビニールシート、油吸着マット、受け皿を使用し油が床に落ちない対策を行っています。万が一油が落ちた場合は、環境にやさしいアースクリーン(中和剤)を使用し、油を除去します。



【取組み②】住宅街に近い現場での配慮

周囲に住宅街がある変電所へ架空地線の基礎を掘削する際、エコパイル工法(NSエコパイル)の使用により低騒音、低振動、残土処理削減を行い、環境に配慮した施工を行いました。



実施推進者
内田社員



02. 送電部



【取組み①】住宅街に近い現場での配慮

基礎工事をする際、騒音で苦情が出ないように、住宅地周辺でも使用可能な油圧ショベルで施工しました。

※[NETIS]…Integrated Noise&Dust Reduction Cooling Systemの略で外部へのノイズ(騒音)の漏れとダスト(ホコリ)の進入を低減した冷却システム。



【取組み②】送電線高鉄塔化工事 樹木保護

山間部の鉄塔建替え工事に伴い、ケーブル延線作業では果樹園の保護用に足場を組みました。

安全最優先を心掛けると共に、自然相手の作業となりますので今後も環境保全を意識しながら行いたいと思います。



実施推進者
中村主任



03. 情報通信部



【取組み】エコケーブルの使用

八代市内の小学校他2校のネットワーク工事の件名において、学校内に敷設するケーブル及びLANケーブルにエコ(EM)ケーブルを使用しました。

今回使用したEMケーブルの「EM」とは、「エコマテリアル(Ecomaterial)及び耐燃性」という意味があるそうです。被覆の素材が従来のもので違うため、ケーブルが従来の電力ケーブルより硬く感じるなどの違いはありますが、敷設や成端処理でそこまで大きな影響はないと感じました。



実施推進者
園田社員



04. 電設部



【取組み】自動車ディーラー メンテナンス工場LED更新工事

既存の照明器具をLED化することにより地球に有害な物質である水銀の排出を排除し、消費電力が削減されるので節電にも効果があります。また、蛍光灯や水銀灯よりも交換のコストが低いためお客様も大変喜ばれました。今後も電設部の得意分野を活かし、このような取組みに貢献していきたいと思っております。



実施推進者
田村社員



05. 営業部



【取組み】くまもと マイ・リバー・サポート事業への参加

継続して行ってきたこの活動も今年で8年目、これまで15回の美化活動を行ってきました。河川敷のごみが海へ運ばれて拡散し、回収が難しくなる前に、今後もこの活動を通じて、少しでも環境の改善、景観の美化の役に立てるよう継続して行ってきたいと思います。

※くまもと マイ・リバー・サポート事業
県が管理する河川で、除草や清掃、花の植栽美化活動のボランティアを行う個人や団体を支援する事業



実施推進者
岩下社員

06. 管理本部



【取組み】前庭の緑化維持・使用済み切手とプルトップ回収

前期より引き続きの使用済み切手とプルトップ回収に加え、本社社屋前庭の整備を実施いたしました。前庭の整備として具体的には、水やり、落ち葉やごみの清掃、除草、低木の剪定を実施し、年末には造園業者に依頼し剪定していただきました。なお、今期は使用済み切手は300g、プルトップは1336.8g回収しております。



実施推進者
井上社員

07. イノベーション経営企画室



【取組み①】

にんにく栽培・黒にんにく製造

65期は64期に計画した太陽光発電機器導入を実施しました。農場にある倉庫屋根上にパネルを設置し、にんにくの乾燥に必要な電熱式の乾燥機に使うエネルギーとして使用しています。



倉庫上に積まれた太陽光パネル

真夏のこの世のものとは思えないほどの暑さの中で設置作業をおこないました。省エネも楽ではありませんが、これからは熊本県産のにんにくを熊本県産のエネルギーで加工して、よりエコの意識を高めていきたいと考えています。

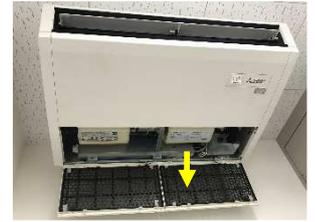


加工食品にした「黒にんにく」

【取組み②】

しらさぎエネルギー(株)

しらさぎエネルギーでは所有している太陽光発電所の空調施設の効率化を計画しています。太陽光発電所には発電に必要な機器を冷やしている部屋があり、365日24時間フル稼働しています。64期に実証試験をした省エネフィルタは約2%程度の消費電力低下の結果となりました。投資効果を加味して導入について検討していきます。



※省エネフィルタ
CONTINEWM、
コンティニューム株式会社製

太陽光発電所という非常に外部温度の変化の激しい場所での実証試験ということで効果の検証が難しかったです。これからは省エネに効果のありそうなものがあれば検証していきたいと思えます。



実施推進者
眞田主任

08. 安全品質環境管理センター



【取組み①】

エコアクション21に関する諸活動

月に1度のEA21推進委員会では環境活動について各部情報の共有化、活動の改善内容の検討、活動の意味・意義を教育する場として活性化を図りました。



ハイブリッドファン取付

環境経営について社内に広めていくことが職務であるため、社外研修の機会で勉強したり、部内で資格試験に挑戦するなどし、各自の意識向上とチームワークで取り組みました。

【取組み②】

オンラインインターンシップ・会社見学・新入社員SDGs教育

オンラインインターンシップや会社見学では学生を対象に、社内では新入社員を対象に、世界・日本・熊本県・自社が取り組むSDGsの内容について、その必要性とともに教育を行いました。



教育資料の作成



実施推進者
松嶋主任



実施推進者
三村社員

09. 八代支社



【取組み①】 ゴミの分別・支社倉庫整理

ペットボトルや空き缶のゴミ箱は分かりやすい表示を掲示することで、社員が自主的に自然に分別をするよう誘導しています。

また、支社は本社より倉庫が広いいため、なるべく小まめな整理整頓心がけており、すぐに資材を取り出せるようにしています。



【取組み②】 支社周辺ゴミ拾い

支社がお世話になっている地域住民の方々から清掃協力のご要望があるため、定期的にゴミ拾いや草刈りなどの清掃活動を行っています。

きれいな道路と環境を保つことで、防犯面でもお役に立てるよう今後も支社らしい地域に密着した活動を続けていきます。

8つの優先課題 白鷺型『Challenge』

急速に身近になってきたSDGsですが、ここでは日本政府が17のゴールを日本流に再構成した中で、特に注力すべき「8つの優先課題」を自社の活動に当てはめながら、白鷺電気全社での日々の挑戦、「白鷺型『Challenge』」をご紹介します。



国際連合広報センター：SDGsを広めたい・教えたい方のための「虎の巻」より

日本政府による「SDGs実施指針」 ビジョンと8つの優先課題(取組みの柱)

ビジョン・・・持続可能で強靱、そして誰一人取り残さない、経済、社会環境の統合的向上が実現された未来への先駆者を目指す

人間 (People)

- 1.あらゆる人々の活躍・ジェンダー平等の実現
- 2.健康・長寿の達成



繁栄 (Prosperity)

- 3.成長市場の創出、地域活性化、科学技術イノベーション
- 4.持続可能で強靱な国土と質の高いインフラの整備



地球 (Planet)

- 5.省・再生可能エネルギー、防災、気候変動対策、循環型社会
- 6.生物多様性、森林、海洋等の環境の保全



平和 (Peace)

- 7.平和と安全、安心社会の実現



パートナーシップ (Partnership)

- 8.SDGs実施推進の体制と手段



8つの優先課題はそれぞれ、2030アジェンダに掲げられている5つのP(※)に対応

※2030アジェンダの序文において、持続可能な開発の重要分野として、人間(People)、地球(Planet)、繁栄(Prosperity)、平和(Peace)、連携(Partnership)の5つのPが例示されている

シトラスリボンプロジェクト -新型コロナウイルス感染対策

・装着するマスクにシトラスリボンシールを貼ったり、名札に取り付けるなどして、コロナ禍で生まれた差別を未然に防止

・感染後に、不安なく職場復帰出来るような環境の整備など



新しい生活様式への対応

- ・新型コロナウイルス対策要綱を制定し、対策本部を発足
- ・体表温検知システムやCO2濃度測定器の導入
- ・テレワークの実施 (出勤率をHPで公表)
- ・web会議・研修
- ・マインドフルネス検討



人財育成

・昇級、昇格時はレベル別に研修プログラムを自社トレーナーより受ける体制の確立

・治療と仕事の両立支援、キャリア育成の行動計画策定

・支援を目的とした資格取得の祝い金や手当の支給制度

・全従業員へSDGsを基礎から学ぶEラーニングの実施



ダイバーシティ経営

- ・令和3年4月1日に外国人雇用を実施
- ・外国人のインターンシップ受け入れ(バトナム・マレーシア等)
- ・治療と仕事の両立支援
- ・健康診断受診率100%
- ・ストレスチェック実施
- ・男女社員育休取得推進



地域雇用の創出

・廃材を再利用して作るSDGs木製バッジの製作など、地域の就労支援福祉施設へ依頼し、雇用を創出



・くま活サポート ふるさとくまもと創造人材奨学金返済等サポート制度 参加登録企業

・地元学生の積極的 新規、中途採用

幸福度No.1の企業へ

-「この会社に勤めてよかった」と胸を張れる企業を目指す

・家族参加型のお花見、社員旅行、忘年会の実施
年2回の慰労会実施
(いずれも2020年度はコロナ禍のため未実施)

- ・各部コミュニケーション費の支給
- ・確定給付企業年金制度・選択制確定給付企業年金制度
- ・選択制確定拠出年金制度・病欠積立休暇制度
- ・定年の延長(65歳まで)

繁栄(Prosperity)

3.成長市場の創出、地域活性化、科学技術イノベーション
4.持続可能で強靱な国土と質の高いインフラの整備

DX(デジタルトランスフォーメーション)化

・しらすぎホールディングスに「人財DX室」を創設し、グループ全体でDX化に取り組む体制を構築

・社内書類や請求書等の電子化

・テレワークやweb会議の普及

・新たな現場管理ソフトの導入検討



危険作業の高効率化(ドローン)

・送電線鉄塔間の延線にドローンを活用

・作業時間の短縮、人手不足の解消、山間地による事故発災等のリスク低減

・災害時の復旧箇所早期発見



繁栄(Prosperity)

3.成長市場の創出、地域活性化、科学技術イノベーション
4.持続可能で強靱な国土と質の高いインフラの整備

環境経営計画達成

1 2 3

社会課題解決

・事故の早期解決や抑止を目的に熊本東警察署、熊本東地区安全運転者等協議会と3社でドライブレコーダーの映像提供に関する協定の締結

・中間山地に放牧された牛の安否確認などICTを活用した技術提供で、高齢化や人手不足などの社会課題に挑戦



BCPの取組み

・災害発生時、迅速にライフラインの復旧現場へ駆けつけられるよう、自社に災害備蓄品を完備

・災害時の通信方法の確保、長距離無線LANの構築
・非常用電源と蓄電池の設置
・社員から「安否報告」の伝達手段システムの構築

災害備蓄品の中身

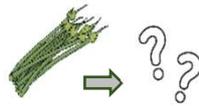
・毛布、アルミブランケット ・飲料水 ・袋式トイレ ・衛生用品
・食事(アルファ米、クラッカー、パン) ・救急用品(薬、包帯、マスク他)
・AED、応急処置ハンドブック ・布担架 ・炊出しステーション
・発電機、懐中電灯、ラジオ ・ダンボールマット その他

地産地消の取組み

・自社農園で収穫したにんにくの乾燥過程で使う電力エネルギーを、太陽光発電で調達



・使い道のなかったにんにくの芽をフードロス回避のため、加工食品として検討・開発中



2050年へ向けた取組み

・2018年2月に「しらすぎグループのありたい姿」を「2050年の子どもたちのために熊本から未来を変える」と定義

・CO2削減や地域のレジリエンス向上に貢献する事業を進めている



地球(Planet)

5.省・再生可能エネルギー、防災、気候変動対策、循環型社会
6.生物多様性、森林、海洋等の環境の保全

環境経営計画達成

1 2 3 4

生物多様性

・環境法令法規の遵守
・工事現場地域の環境保全に配慮した行動、工法の検討、実施



・取引先と協同で絶滅危惧種のメダカを飼育し、近隣の小学校へ寄贈



水と森の保全活動

・NPO法人しらすぎとともに森林水源涵養保全活動の実施



・西原村や南阿蘇村にて植林と下草刈りの活動



・他社の環境保全ボランティアに応援参加

再生可能エネルギーの使用

・本社社屋のZEB化 ・太陽光パネルの設置
・地中熱利用換気システム ・蓄電池の設置
・空調機スケジュール運転 ・照明人感センサー

・太陽光熱利用給湯
・急速充電器設置
・電気自動車



カーボンニュートラル

・省エネ関連商品の提案、導入(EVバス等)
・COOL CHOICEの実施(エコカー導入)
・森林熊本県森林吸収量認証書交付

52台中
24%



地球(Planet)

5.省・再生可能エネルギー、防災、気候変動対策、循環型社会
6.生物多様性、森林、海洋等の環境の保全

環境経営計画達成 1 2 3 4

再生可能エネルギーの普及と創出

約66,000㎡の広大な面積を誇るメガソーラーは家庭で1年間に使用する電気の約1,000世帯分を賄う電力を作ることができます。太陽光発電を始めとする再生可能エネルギーは2050年の脱炭素社会の実現に向けて、ますます必要とされるエネルギーです。



防災・減災・レジリエンス

・工事現場ごとに社内防災士監修のハザードマップ作成、掲示



・災害を想定した避難訓練の実施

・大規模災害発生を想定した電気通信工事事業者広域連帯基本協定を他県の会社と3社で締結

平和(Peace) 7.平和と安全、安心社会の実現

計画達成 1 4

安心社会の実現 地域・国際貢献

・熊本城マラソンや花火大会など、地域行事へのボランティア参加

・国際組織への募金活動、古切手回収、プルトップ回収などの社会貢献活動



パートナーシップ (Partnership)

8. SDGs 実施推進の体制と手段

環境経営計画達成 3 4

サプライチェーン管理

・お取引先様懇談会を実施し、問題意識の共有や双方向の対話に努める



・取引先実績評価表の実施



・パートナーシップ構築宣言公表の検討

地域への参画

・NPO法人しらさぎとともに熊本城、八代城跡の清掃活動、南阿蘇村の里山保全活動



・熊本城マラソンや花火大会など、地域行事へのボランティア参加



SDGs活動の普及啓発

・ZEBリーディングオーナーに登録し、会社見学などZEB普及活動を実施



・全従業員へ「SDGs E-ラーニング」の実施

・eco検定、CSR検定資格取得

・環境経営レポートの作成公表



・熊本県SDGs登録制度(第1期登録事業者)

「©2010 熊本県くまモン」

各種コンクール応募

・第24回環境コミュニケーション大賞

・環境 人づくり企業大賞2020

・BCAOアワード2020

その他
認証・表彰





令和2年7月豪雨(令和2年7月3日～令和2年7月31日)

7月3日～31日にかけて、熊本県を中心に九州や中部地方などで発生した集中豪雨により、熊本県を流れる球磨川水系では13カ所で反乱・決壊し多くの被害を出した。

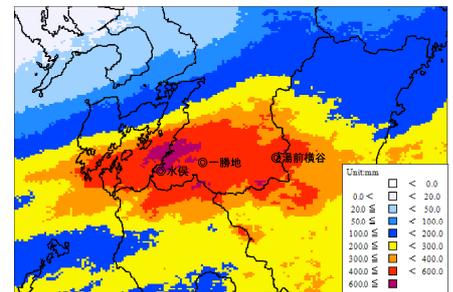
【支援の目的】

コロナ禍での避難生活を少しでも安心して送って頂くために、弊社の「感染症対策ソリューション」であるタブレット型の体温検知システム(V2L)を各地の避難所やボランティアセンターに無償貸与を行った。

【実績】

水俣市2台、津奈木町2台、
芦北町4台、八代市3台、
人吉市5台、山鹿市2台
計18台

避難所に設置された
体温検知システム



※気象庁「災害をもたらした気象事例」
令和2年8月11日の文献を引用



氾濫によって被害に
あった球磨川付近の状況

【担当者の感想】

避難所やボランティアセンターへシステムを運搬する際の道のりは、道路崩落箇所や土砂崩れの危険性もあり、困難を極めた。また、八代市坂本町では重要な光通信回線を敷設する坂本橋が流失した事から、付近の携帯電話は使えない状態であり、弊社の情報通信部がその重要な光通信回線を復旧させるため昼夜を問わず作業を行った。改めて自然災害の恐ろしさを知るとともに、ライフライン復旧作業が社会に必要な仕事であることを感じた。

感染対策ソリューション

弊社は地域の生活に必要なライフラインを支える事業であるため、新型コロナウイルスの感染が拡大中であっても社員の安全を守りながら事業活動を継続する必要がある。そのためwithコロナ・アフターコロナを見据えた「感染症対策ソリューション」をブランディングし、自社のオフィス環境の整備はもとより、地域経済活動の再開を支援している。

【支援の目的】

・タブレット型の体温検知システム(V2L)を本社ビル1Fエントランスに設置し、お客様や社員の温度検知を独自のアルゴリズムで行い、AIの顔認識機能により温度検知データを自動記録している。

・室内の二酸化炭素量を3密の指標とし、NDIRセンサーを搭載した二酸化炭素濃度検知システム(hazaview等)を各執務室内に設置して、見えない空気を“見える化”している。室内の二酸化炭素濃度が1000ppmを超えたら、AIが音声アラートで換気の注意を促す。



各階でCO2濃度を検知するセンサー



CO2濃度測定器

【実績】

ロアッソ熊本
サッカーの試合やイベントなどV2Lを使って支援を行った。

【担当者の感想】

令和2年9月9日、12日に開かれたロアッソ熊本(サッカーチーム)のホームゲーム及び同月27日に開催されたレガシーイベント「RWCの日」に来場客の安全と安心のため、感染症対策ソリューションのV2Lを設置するボランティアを行った。久々にサッカーの試合を間近で見たお客様の顔には笑顔が溢れていた。



えがお健康スタジアムにて



来場客向けの温度検知システム(V2L)

環境関連法規への確認及び評価、違反・訴訟

環境法規制の遵守活動を行い、その遵守状況の評価を行った結果、環境法規制への違反はありませんでした。
環境法規制の遵守活動を通して、関係当局よりの違反等の指摘はありませんでした。

法規制等	遵守事項(法規制/自主規制)	遵守評価
家電リサイクル法	・取引業者への適正な引き渡し(発生時のみ)	○
自動車リサイクル法	・取引業者への適正な引き渡し(発生時のみ)	○
フロン排出抑制法	・廃棄時の適正処置(発生時のみ)・処理委託書提出、処理報告書の受理 ・特定施設の自主点検の実施	○
建設リサイクル法	・工事に係る分別、再資源化の実施・再資源化完了の書面報告 ・対象工事の7日前までの市町村長への届出	○
騒音規制法	・知事へ7日前までに届出(指定区域周囲80m) ・作業敷地境界にて85デシベル以下・空調機(本社・支社)の届出	○
振動規制法	・知事へ7日前までに届出(指定区域周囲80m)・作業敷地境界にて75デシベル以下	○
廃棄物処理法	・産業廃棄物の保管・委託契約書(5年間保存) ・マニフェスト伝票管理(5年間保存)・産業廃棄物管理表交付、状況報告 ・産業廃棄物の運搬(運搬車への表示・マニフェスト伝票の携帯)	○
消防法	・市町村条例で定める(指定数量の1/5以上、指定数量未満の場合、あらかじめ届出)	○
建設汚泥の再生利用に関するガイドライン等	・適切な調査、設計、施工及び管理を行う・リサイクルの結果を確認し、記録を保存	—
オフロード法	・特定特殊自動車排出ガスの規制	—
悪臭防止法	・塗料等を使用する場合の作業量や時間帯の検討	—
道路法	・公共道路を使用する場合(道路管理者へ道路占用許可の申請)	○
道路交通法	・公共道路を使用する場合(管轄の警察署へ道路使用許可の申請)	○
水質汚濁防止法	・知事に60日前までに届出・測定を実施(記録の保存3年間)	○
下水道法	・公共下水道管理者にあらかじめ届出・生活環境項目については、条例による	○
毒物及び劇物取締法	・ケトンその他化学物質の表示、保管	○
地下水保全条例(熊本県)	・ポンプ(本社)の届出(地下水採取の届出及び地下水涵養の取組み)	○
浄化槽法	・定期点検、法定点検の実施	○

周辺住民からの環境苦情、訴訟については 苦情が1件ありましたので下記のように対応しました。

第65期 環境に関する外部苦情報告

日付	苦情の詳細	経過と対応の詳細
12/7	八代市の弊社資材置き場で「警報機の警報音が15分おきに鳴っている」と管理会社から連絡あり。目の前のアパートの方がお困りのご様子。	管轄の情報通信部へ連絡し、現地に弊社社員を一次対応で向かわせ、状況を確認。その後すぐに二次対応で担当社員が到着し、警告音を停止させた。アパートの住民の方へは電話で謝罪し、理解を得たと判断。 警告音の原因は電池の電圧低下を知らせるものであるため、新品の電池の取り寄せ中は運用を一時停止。その後、現地の警告音を消音し、事務所では発報するよう調整を行った。



B

Penetrandi commodi ligula
egit dolor. Aenean massa.
Cum sociis natoque
penetrandi et magnis dis
parturient montes.

C

Consectetur adipiscing
elit. Aenean commodo
ligula eget dolor. Aenean
massa. Cum sociis
natoque penatibus et

D

Cum sociis natoque
penatibus et magnis dis
parturient montes.
Aenean massa. Cum sociis
natoque penatibus et

Head Line 06

Head Line A

Action

代表者による全体の評価と見直し・指示

65期を振り返りますと、コロナで明けてコロナで暮れた1年だったと思います。社員の感染防止対策を第一に、効率よりも安全を優先した結果、使用電気代が前年より増えてしまいました。換気の強制等でやむを得ない面もあり、感染防止対策と環境負荷低減の両立に課題を感じる1年でもありました。また、2020年7月に起きた豪雨災害の復旧工事も部署によってはその後も長く影響を受けたことから、化石由来の燃料使用が大幅に増加しました。地域のライフラインを守ることが私たちの使命ですので、これもやむを得ない事情ではないかと思えます。しかし、社会と時代の要請に応える会社で在るための努力を忘れてはいけません。これから6年後の80周年へ向けて、社用のガソリン車で対応可能な車両は電動車へ入れ替えを行うなど、私たちの知見を活かした「カーボンニュートラル」計画を段階的に着手していきましょう。白鷺電気が熊本から未来を変える会社としての前進です。

● 環境経営方針について

2019年7月に改訂版を作成し、よりSDGsの実施指針に沿った方針となりました。

社員一人ひとりの小さな気付きが、やがて大きな変革を生む潮流となるよう、全員が同じベクトルを向いて行動しましょう。

● 環境経営目標及び環境経営計画について

目標については2018年の実績をもとに作成しましたが、必要に応じて見直しを行ってください。

65期は会計期間が9ヵ月間、活動報告は12ヵ月間とイレギュラーな年になりました。また来期からの新たな3ヵ年目標および計画を立てましょう。

● 実施体制について

実施体制については、組織改編に伴い変更を行いました。

新たな組織となったことで、運用と取りまとめがうまくいかない部分もあるかもしれませんので、コーポレート部門と安全品質総務本部がタッグを組んで、EA21推進委員会を中心に全社一丸となった取り組みを行ってください。



白鷺電気工業株式会社
代表取締役社長 沼田 幸広

ライフラインを守る使命のために



私たちの使命は、地域のライフラインを守ることです。災害発生時にいち早く現場に駆け付け、迅速な復旧作業を行うには、普段からの備えと機能的で災害に強い社屋が必要不可欠です。快適かつ機能的な私たちの本社社屋とBCPの取組みをご紹介します。



Nearly ZEBを達成 ZEBリーディング・オーナー登録 (九州内で5社のみ 2018/1/26時点)



●耐震設計

『災害に強いビル』を目指して建物の座屈拘束ブレース(耐震材)を導入し耐震性を高め、最高ランクの耐震等級「3」相当を実現しました。



●Low-E複層ガラスと高断熱壁

外熱に左右されないよう、ビルの躯体を高断熱材で覆い、さらに日射遮蔽を設置して外熱を遮断します。窓はLow-E複層ガラスで太陽熱の侵入を防ぎ、冷暖房効率をアップしています。



●スマート直流配電ネットワークシステム

太陽光などの再生可能エネルギーの変換ロスを少なくするために、オフィスビルでは日本で初めて直流380Vで直接給電するスマート直流配電ネットワークシステムを導入しました。



●太陽熱利用給湯

太陽光エネルギーは発電ばかりではなく給湯の熱利用としても用いています。更衣室のシャワーは熱いお湯が利用できます。



●直流電源対応LED照明

わずかな給電で明るく長時間の点灯が可能です。



●電気自動車用パワーコンディショナ(V2H)

電気自動車やPHEV車を住宅用の蓄電池としても活用するための設備です。停電時にも電気自動車内の蓄電池に充電できます。



●地中熱利用換気システム

温度が地表と比較して安定している地中の熱を空調に利用しています。

夏に涼しく、冬に温かい地中7.5m付近の熱を利用して事務所の足元や天井から空調の快適環境を実現しています。



●非常用電源と段ボールベッド

LPガス防災用発電装置を設置し、停電時は自動で自家発電に切り替わります。また、段ボールベッドは社員の家族も避難できるように準備しており、BCP対策にも力を入れています。



●長距離無線LAN

本社の通信機能が災害によって途絶えた際にも、鉄塔に設置した長距離無線LANで本社から約50km離れた八代支社間まで不知火を中継地点にした通信システムを構築しています。八代支社の通信機能が生きていれば、無線LANを通じてインターネットを利用することができるようになっています。



●災害備蓄品

備蓄品の中には食料や薬もあるため、消費期限の確認を定期的に行い、廃棄などで無駄が出ないように管理しています。





SHIRASAGI®